

C - 2

「今ある生活に+α」

プレゼンテーション

思いに添った

余暇時間の充実

～一人ひとりの余暇時間の充実を目指して～

広島市安佐北区

グループホームなごみの郷 さと かめやま 亀山

介護福祉士

さ さ き 佐々木 かずき 一樹

管理者 廣森 靖司

E-Mail kameyama@nagominosato.jp

施設（事業所）
またはサービスの
概要

社会福祉法人正仁会グループホームなごみの郷亀山。2 ユニットで定員は 18 名。
同一建物内に認知症対応型通所介護を併設。
その人らしい生活を送っていただけるよう、日々認知症ケアに取り組んでいる。

I. <取り組み課題>

グループホームなごみの郷亀山（以下、当事業所）では、食事、入浴、排せつケアに対し、入居者一人ひとりの個性やニーズに合わせたケアをその都度検討し、提供している。一方で、レクリエーションなど余暇時間の過ごし方に関しては画一的に提供しているのが現状であった。以上の現状を踏まえ、令和 5 年度は「今ある生活に+α」をテーマに、全入居者の生活を見つめなおし、個々の余暇時間の充実を目標として取り組んだ。その経過を報告する。

II. <具体的な取り組み>

取り組みを開始するにあたって、当事業所の介護職員 3 名で「+α委員会」を立ち上げた。まず委員会では「今ある生活に+α」を実現するためには何が必要なのか検討し、まずは当事業所 17 名の職員にアンケート調査を行った。質問内容は、余暇時間に入居者の希望に沿ったレクリエーションが提供できているか。現在、どのようなレクリエーションを提供しているか。などとし、選択式と記述式で回答を得た。その結果、余暇時間の充実を図るうえで①職員が入居者のやりたいことなどのニーズを知り切れていない。②入居者について多数の職員で話をする機会が少ない。③職員がケアを提供する「目的」を理解できていない。という課題があがった。これらの課題を踏まえて、多くの職員が集まり、入居者の思いや現在の状態について議論する場を設け、その議論内容をもとに「今ある生活に+α」を設定し、余暇時間の充実を図ることとした。その方法として、入居者一人ひとりの思いや現在の身体状況、生活における課題などを担当職員が再度アセスメントを行い、令和 5 年 5 月の事業所会議でプレゼンテーション（以下、プレゼン）をおこなっていくこととした。プレゼンを行う際のルールについては①使用するツールは認知症介護研究・研修東京センター発行のセンター方式、私の姿と気持ちシートで統一した②実施頻度は毎月の事業所会議で 2 名ずつ③プレゼン内容には現在の入居者状態を踏まえたうえで、「こんな生活を送って欲しい。こんな関わりを持ちたい」

い」など、職員の思いも盛り込むこととした。以上のルールを定め、毎月事業所会議に参加した 10～15 名の職員でプレゼンに対して議論した。そこで決まった「+α」を 1 週間以内に担当職員と+α委員会が主となり発信し「+α」の提供を開始した。入居者のその後の状況や様子などの経過は一か月後に評価し、改善することを一つのサイクルとした。

III. <活動の成果と評価>

令和 5 年 5 月から令和 6 年 3 月までに入居者 17 名のプレゼンを行うことができ、入居者それぞれの「+α」設定し、提供している。

今回の取り組みに対し、令和 6 年 2 月に当事業所 17 名の職員へアンケート調査を行った。アンケート内容は①入居者一人ひとりの思いに添った「+α」を提供することができたと思うか。②プレゼンを行うために、入居者の生活を見る視点が変わったか。③個々の「+α」の目的を理解し、他者に説明できるか。④自由記載とした。①～③の問いに対して「はい」と答えた職員はそれぞれ 80%を超えた。自由記載では、多数の職員で取り組みを決めたことにより、事業所全体で取り組むことができた。他職員の考え方や思いを知ることができた。など、前向きな意見が多くあがった。

今回の取り組みを通して、多数の職員で議論する場を設け、皆で「+α」を決めたことにより、その目的を業所全体で共有でき、全体で取り組むことができた。また、各職員の入居者へ対する思いや考え方を知るきっかけにもなったと考える。

IV. <今後の課題>

入居者個々の「+α」は順調に提供ができている。しかし、今回の取り組みだけでは余暇時間が充実したとは言えない。思いに添った「+α」の数を増やすことによって入居者の生活が豊かになり、その人らしい生活が実現すると考える。そのために、我々職員のアセスメント能力をさらに向上させていく必要がある。

V. <参考資料など>

認知症介護研究・研修東京センター作成「私の姿と気持ちシート」